

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果
作成日

令和 4年 6月 29日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3072100484		
法人名	社会福祉法人 同仁会		
事業所名	グループホーム カルフール・ド・ルポ印南		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護 介護予防認知症対応型共同生活介護		
所在地	和歌山県日高郡印南町山口150-1		
自己評価作成日	令和4年6月29日	評価結果市町村受理日	令和4年10月25日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	(基本情報リンク先URLを記入)
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カロア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘4丁目4-33
訪問調査日	令和4年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

立地は緑豊かで自然に囲まれた環境で落ち着いた生活ができます。庭先にはテーブルやベンチを設置し気軽に気分転換ができるように開放的な生活空間作りを目指しています。また、プランターに四季折々の花を植えたり、野菜の栽培なども行っています。自然と季節感を感じられる雰囲気にもなっています。施設内は思い出の写真や利用者が作成した貼り絵などの作品を飾り、温かい家庭的な環境を整えています。職員はチームワークを大切に、日々の業務に取り組んでいます。利用者の個々の楽しみとして書道、手芸、カラオケ等の趣味活動の支援を行っています。また、現在コロナ禍で面会制限や外出制限が続いていますが、遊歩道の散歩や外気浴を行い外の空気に触れる機会を設け、気分転換ができるよう支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

自然豊かで静かな環境にありながら、駅や高速道路のインターチェンジに近く、交通の便も良い立地です。施設を桜並木がある遊歩道で囲まれており、気持ちよく安全に散歩や外気浴ができます。ここ近年のコロナ禍において、外出や行事を制限せざるを得ない状況にありますが、利用者に退屈で窮屈な思いをさせないよう、様々な工夫を凝らしたクッキングや梅干しづくり、実家へのドライブ等の行事やレクリエーションを感染対策に留意したうえで数多く実施されています。それらの企画は利用者と職員で話し合い計画されており、職員も利用者と共に生活を楽しむという考えが浸透しているのだと感じました。また、会議や委員会、研修会も定期的に開催されており、職員全員がそれらに参加することで、サービスの質の向上に取り組んでいます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の運営理念を作っている。管理者と職員は、毎朝の申し送りや会議の中でケアの内容を確認している。	施設内に掲示するだけでなく、会議や日々の実践の中で職員間で理念が浸透しているかの確認が行われており、実際の運営に反映されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍でボランティアや施設全体の大きな行事、地域との交流はできていない。利用者が個人的に併設サービスを利用している方と交流する事はある。6月に運営推進会議を再開。買い物支援を再開したり、家族よりボランティアの案を聴いている。	コロナ禍での制限が多いなかで、ドライブや買い物に出かけたり、併設の他サービスの利用者との交流の機会を設けたりと、施設が地域から孤立しないよう工夫されています。地域の方が差し入れを届けてくれることもあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で話し合いを行っている。併設特養での認知症カフェ、併設支援センターの出前研修等。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中では外部評価の考察や年間行事についての意見を求め、サービス向上に努めている。事故報告も行い出席者からの意見も聞いている。	最近の基本書面での開催ですが、感染状況が落ち着いている時期は会議を開催しています。利用者や家族からの要望を聞いたり、地域の方からボランティアの申し出があったりと、サービス向上につながる議題が話し合われています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは必要書類の提出時など話を行いコミュニケーションを図っている。2か月に1回の運営推進会議に出席してもらうようにしている。	町の担当者とはいろいろな相談がしやすい良好な関係です。運営推進会議に出席してもらったり、敬老会等の町のイベントがあるときは声をかけてもらったりしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を行い、身体拘束のないケアを実践している。玄関施錠を含め、居室の施錠もせず。また、毎月身体拘束適性化検討委員会を開催している。	身体拘束を行った事例はここ数年ありませんが、毎月委員会を開催し、身体拘束や虐待につながる可能性のある不適切ケアが行われていないか確認するなど、職員の意識向上に取り組んでいます。	

7	<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待に関する研修を行い、虐待防止に努めている。</p> <p>また、虐待防止検討委員会を開催している。</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護に関する研修を行い知識の向上に努めている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は十分な時間をとって話し合いを行っている。制度改正時などは報告を行い、説明、同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の様子について適宜家族に連絡を入れ、要望など話を伺っている。必要時にサービス担当者会議を開催し家族の意向を確認している。運営推進会議で話し合った事を取り入れたりサービスの向上に努めている。</p>	<p>運営推進会議や面会時、サービス担当者会議の場などで家族からの意見や要望を聞いています。利用者からは日常的に意思を確認し、職員間で情報の共有がされています。それらはケアプランにも記載するなどして、実際のケア内容に反映されています。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>毎月のスタッフ会議や毎朝の申し送り時に確認し運営に反映している。1回/年職員は自己評価を行っている。</p>	<p>月1回のスタッフ会議では、事前に全職員に議題や意見を求めることで、実質全員参加で様々な議題が話し合われており、職員が意見を表明し、それを運営に反映させる機会が多くあります。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>各職員の個々の適性を見極め、適切な業務配置をしている。定期的に施設内での研修を行っている。</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設内での研修を1回/月以上行っている。施設外研修への参加も推奨している。</p>	

14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者との交流、相互実習はできていない。外部研修に参加した際に交流している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では訪室回数を増やしたり、本人の言葉を傾聴する事を心がけている。他の利用者との交流ができ良好な関係が築けるよう支援している。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの開始前より家族の意向を聞き不安な部分や心配な部分の確認をしている。家族の立場に立って気持ちを受け止められるよう努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	開始時の話し合いでグループホームのサービス内容の説明を充分に行い、必要に応じて他のサービス利用についても話し合をするようにしている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は家族に近い関係ができるよう努めている。		
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは適宜連絡を取り、本人の状況と共有し、共に支え合う関係作りを心がけている。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会制限があり地域との交流の機会は減っている。施設行事は縮小されているが利用者が個人的に併設サービス利用の利用者と面会する機会はある。また、町内ドライブを行い、実家の近くを通る等、馴染みの場所を見てもらっている。	面会の制限があるなかで、窓越しに面会してもらったり、実家にドライブに行くなどの工夫がされています。また、併設サービスを利用している友人と会ったり、法人全体の行事で交流したりと、コロナ禍においても馴染みの関係が途切れない支援がされています。	

21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係を考慮し食事の席などの調整を行っている。コミュニケーションが難しい場合は職員が間に入り、交流ができるよう支援している。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用契約が終了した利用者、家族との関わりはできていない。終了時にはその後の支援ができる事を伝えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中から本人が望む暮らしを把握し、実現できるよう努めている。話し合いを行い、家族と連携し本人本意の支援を心がけている。	入所時に本人や家族から生活歴を聞き、料理や歌、農作業など、その人の趣味やライフスタイルを施設での生活に反映できるように支援されています。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを充分に行い入居前の状況を把握するようにしている。入居後も本人、家族の声を聞き、個々の想いをくみ取るよう努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員個々の視点から日常の観察、利用者の状況把握を行い利用者の有する能力や意欲に合った支援をチームで話し合っている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向や利用者の変化に応じて適宜話し合いの場を設け介護計画を作成している。必要に応じて主治医、PT、OT、看護師の意見を取り入れている。	ケアプランは3か月ごとに見直しています。スタッフ会議やサービス担当者会議で内容を検討することで、家族や医療スタッフの意見も反映したプランを作成しています。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を記録し、職員一人一人の気づきを大切に必要事項は毎日の申し送り共有している。それらの情報を元に介護計画の作成に努めている。		

28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>必要に応じてできる事の対応は事業所で検討し、取り組んでいる。</p>		
29	<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>コロナ禍のため地域との関わりができていない。</p>		
30	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者、家族の納得を得た地元の開業医と連携し対応している。職員同伴で通院支援を行っている。適切に医療が受けられる体制を整えている。</p>	<p>入居時に今までのかかりつけ医か地元の開業医か選択できません。夜間緊急時の対応も医師との連絡体制がとれています。また定期的な往診で健康管理も行われています。</p>	
31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>日常生活状況、バイタルサイン等の情報交換を行い看護職員と連携している。必要時には対応してもらえる体制になっている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時は医療機関と情報交換している。入院中も連携を取り、退院に向けてのカンファレンスに出席し必要な話し合いを行っている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>利用者の終末期に関しては早い段階から十分な話し合いを行い、家族の思い等の確認を行っている。主治医とも連携し意向に添えるよう努めている。また、グリーフケア会議を開催し、家族から意見を聴き、次に繋げられ、より良いケアが出来るように考えている。</p>	<p>状態に変化があれば家族等に意思確認を行い、関係機関や併設施設とも連携を取り、家族等の意向に沿った支援をされています。またグリーフケア会議を開催し家族様の心情に寄り添う取り組みをされています。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>施設内では研修を行い緊急時に対応できるよう研鑽している。</p>		

35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、併設の特養との連携も確認している。非常食については本館特養で備蓄している。BCP作成にも取り組んでいる。	同敷地内にある本館特養や他関連施設と連携し、火災だけでなく地震の災害訓練もされています。災害別のマニュアルやBCP作成にも取り組まれており意識の高さが伺えます。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した関わりを行っている。また、人権の研修も行っている。	法人で各部署から委員が参加し、年1回の研修を行っています。それを委員が各自の部署で職員にフィードバックしプライバシーの確保や人格の尊重に取り組まれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中ではなるべく利用者の思いや自己決定を尊重した生活が実現できるように関わりを努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り利用者の希望に沿った支援ができるように努めている。その時々に合わせて関わりができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服を選ぶ際は本人に確認し希望に沿ったおしゃれができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	なるべく嗜好に添った食事が提供できるよう意見を取り入れている。毎月GH内で利用者と一緒に料理する機会を設けている。毎月栄養に関する会議を併設事業所と一緒に開催している。	食事の希望があれば、スピーディに対応され、月に3回程度食のレクリエーションが行われています。時には焼鳥や鰻がでることもあり一緒に調理しながら食事を楽しむ支援が充実しています。また栄養会議も開催され誤配食がないか等、その側面からも食を楽しむ支援がされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と連携し対応している。水分摂取や体重の把握、食事時の体位や食器の形状についても必要時にはOTと連携をとっている。		

42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態、状況に応じた口腔ケアを行っている。歯科医師、歯科衛生士からの指導も受けている。		
43	16 ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を作成し排泄パターンの確認を行っている。利用者の状態に合わせた支援をしている。	排泄チェック表を活用し、声かけのタイミングや交換回数の変更など利用者の状態に合わせた排泄支援をされています。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動への声掛け、支援を行っている。また、適宜腹部のマッサージもしている。		
45	17 ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日、時間帯について希望に合わせてられない事もあるが、入浴の際には個々に合わせた方法でゆっくりしてもらえるよう対応している。プライバシーに配慮した支援。入浴拒否がみられる利用者にはタイミングを変えるなど対応している。	時間を気にせずゆっくりと入浴がしたいなどの、一人ひとりの希望に副った入浴ができるように細心の注意を払いながら入浴を楽しむことのできる支援に取り組まれています。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活状況に合わせて安心できるよう声掛けや関わり方を工夫している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能を確認し知識の向上に努めている。薬局の協力を得て分包、氏名、日付等の記載をもらっている。配薬容器に分けて準備し誤薬防止に努めている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の希望に沿った趣味や楽しみ事、生活歴や力を活かした役割が持てるよう支援している。		

49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>利用者の希望に沿って庭先で気分転換をしたり、遊歩道の散歩をしている。コロナ禍で外出支援はできていないが、車から降りないドライブ、客の少ない時間帯での買い物支援を希望に応じて行っている。</p>	<p>コロナ禍の今は、ドライブに出かけ利用者の自宅近くを通るなど希望に副った外出支援を心がけています。また施設の周りに春には桜が咲き乱れる遊歩道があり、週に1、2回は散歩に出かける支援もされています。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本は施設で預かって管理している。希望がある方については少額個人で持っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話は希望があれば使用してもらっている。手紙のやり取りの支援もしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の趣味で作成した作品、行事の写真、四季折々の花を生けるなど、馴染みの環境を整えている。</p>	<p>陽光が差し、広く明るいリビングに利用者が集まり談笑しながら過ごされています。季節を感じる花や作品が掲示され、またそのリビングには畳の場があり、ソファでも畳でもお気に入りの場所で各々くつろがれています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファを設置しゆっくりと話せるスペースを設けている。畳みのスペースでは利用者が横になったり洗濯物を畳んだりしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>タンスやテレビなど馴染みのある物を持ち込んでもらっている。利用者や相談しながら居心地良く暮らせるよう努めている。</p>	<p>鉄道の駅名が付けられた部屋には利用者自身の使い慣れた馴染みの物や家族の想いが詰まったものなど自由に持ち込むことができ、自分だけの居心地のいいスペースが実現されています。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室が分かりにくい場合は表札を工夫したり、目印をつけて分かりやすくしている。トイレも分かりやすいよう工夫している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない